

月寒九条の会

会報

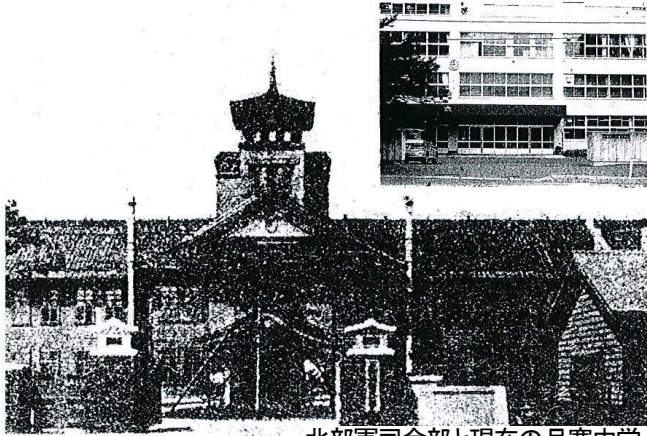
2015年1月
No 8

月寒九条の会は第8回例会として、十一月二十九日、「札幌郷土を掘る会」代表の小松豊さんから、「札幌の旧軍事施設跡・朝鮮人の強制労働」と題して、講演をいただきました。

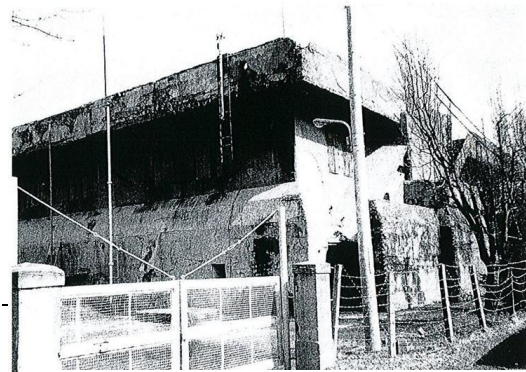
軍隊の町だった月寒

小松さんには、初めにスライドを使って、豊平区内にあった軍事施設について紹介していただきました。

月寒には、現在の月寒中学の所に北部軍司令部が置かれ、下の美園地域からお城のように見えたと言ったことでした。



北部軍司令部と現在の月寒中学



北部軍司令部防空指揮所、現在は公務員宿舎に

建物は戦後まもなく火災で消失しましたが、門は現在、月寒西の平和公園に移されています。

月寒中学から道路を一本隔てた北側には、北部軍司令部防空指揮所がありました。米軍の爆撃にも耐えられるよう

1.5mの厚いコンクリートで固められた地上二階地下三階

連絡先：野口 (852-9360)
加藤 (852-2346)
e-mail:tsukisamu9@yahoo.co.jp
http://www.geocities.jp/tsukisamu9/

の建物で、NHKの高橋圭三アナウンサーもここに入って仕事をしていたと言ったこと。この指揮所は建設に三年かか

るところを、朝鮮人労働者とタコ部屋労働者を使用した突貫工事で建設されました。戦後も自衛隊の送信所として使われていました。戦争の遺跡として残すよう保存運動が行われましたが、2008年に取り壊され、跡地に公務員宿舎が建設されました。

北部軍司令官の官邸は現在も郷土資料館として残されています。

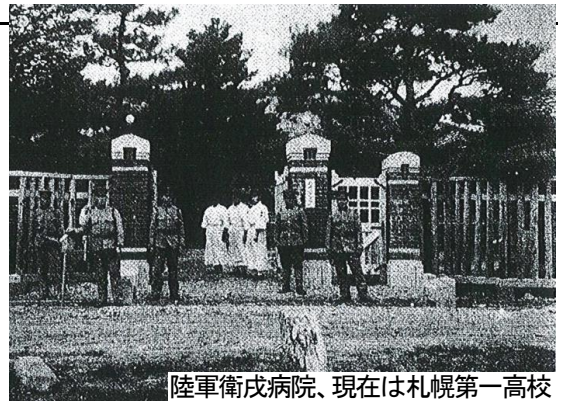
現在の国道36号線と2条線の間は月寒25連隊の基地となっており、2000人近い兵隊がいた。さらに、現在の月寒公園は射撃場で、ちょうど下のグラウンドから南に見える丘の斜面が的となっていました。

札幌第一高校の



北部軍司令官官邸、現在の郷土資料館

ある所は、陸軍の衛戍病院となっていました。当時の松が今でも残っています。



陸軍衛戍病院、現在は札幌第一高校

このように、月寒はかつては軍隊の町であり、軍の施設の跡に現在の学校が造られました。また、西岡の水源池は

月寒川をせき止めて造ったものです。これが、これも月寒25連隊に水を供給するために造られたものです。



月寒25連隊

教科書でも隠される「強制」の事実 札幌で、延べ9000人の強制労働

札幌における朝鮮人の強制連行、強制労働について、小松さんは、かつての中学校の社会科学教科書では「強制連行」とはつきり書かれていたが、現在使用の教科書では「集めて・・・連れて行き」と改悪され、強制連行の事実が隠されてきていることを指摘しました。

日中戦争の拡大・泥沼化により、国内の労働力が不足し、これを補うため、政府は1939年から、行政機関をあげての労働力移入計画を遂行しました。初めは「募集」という形を取りましたが、それは形だけで、目標数に達しなければ、官吏や警察、村の有力者が加わって強制的に集められました。その数は70〜80万人、一説には150万人もの朝鮮人が強制連行されました。

連行された朝鮮人は内務省(特高)・厚生省を中心に作られた共和会に強制加入させられ、この「会員章」の常時所有を義務づけられ、自由の

ない監視・管理のもとで働かせられました。札幌では、豊羽、手稲の鉱山、丘珠飛行場の建設、北部軍防空指揮所建設などに従事させられました。

小松さんたちの調査では、札幌では10カ所で述べ9000人の朝鮮人が強制労働を強いられたことが明らかになっています。

朝鮮における募集(連行)については、担当者の証言や、強制連行された人の証言があり、小松さんは、そのいくつかについて紹介しました。また、こうした連行は、いずれも、どこでどんな仕事をするのかについては事前に知らされることなく、労働条件や待遇をめぐっての紛争と警察による弾圧があったこと、賃金も契約が終わる段階で支払われ、その段階で日本人労働者に比べはるかに低いことがわかったことなど、様々な問題について語りました。

小松さんは、「戦後、19

65年に日韓基本条約が結ばれたが、賠償問題は経済協力にすり替えられ、個人の補償は未解決になっている。日本政府は被害者の立場に立つて言われなくても、ましてや裁判になる前に進んで誠意を持つて、事実を認定し、謝罪するべき」と語りました。また、こうした事実を後世に伝えていく必要性を訴えました。

真相を明らかにしない政府

質疑応答では、朝鮮や中国の人々に強制労働を強いた事実について、郷土を掘る会では調査をすすめているが、日本の政府は実態を明らかにしようとしぬのか、との質問が出ました。

これについて、小松さんは、「札幌での強制労働について、藻岩山発電所建設については証言が100件以上集まり確認が高いついて、新札幌史に記載されている。しかし、強制労働は国が積極的にかかわったことで賠償問題に関わること、また戦争は無慈悲で悲惨なものであることを知られたくないために、国は明らかにしようとしぬ。三光作戦、731部隊、南京虐殺についても同じ」と語りました。普通、罪を犯せば、その真相を明らかにし謝罪するのが当たり前ですが、戦争の場合は許されるのでしょうか？

参加者の感想

戦中・戦後の歴史で、札幌市内で驚きだった。札幌でもこんなにくさん強行連行していたと思いませんでした。日本人と朝鮮人の給料の差に驚きました。

教科書改悪を進めた町村信孝氏はとんでもない。中学社会科教科書にもっと詳しい事実をのせ、子供たちに考えてもらう授業をしてほしいと思った。

日本の近代・現代の勉強がとても必要と改めて感じました。

集団的自衛権「閣議決定」撤回 全道の「九条の会」集会

月寒九条の会を含む北海道内の180を超える「九条の会」が集まって、十一月二十日夜、札幌市民ホールで、「集団的自衛権「閣議決定」撤回を求める全道集会」が開催され、900名を超える参加者

ぐる動き・運動の流れ」と題して講演を行いました。

神保氏の講演のあと、道内7つの九条の会から、活動状況が報告されるとともに、憲法の改悪、集団的自衛権の行使容認をゆるさないとする決

が、集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回と秘密保護法の施行中止を求めました。

集会では初めに、明日の自由を守る若手弁護士会の共同代表の神保大地弁護士が、「憲法をめ

意がのべられました。



各九条の会代表が壇上に並んで「平和憲法を守れ」と訴えました